

朝顔のグリーンカーテンを作ろう

出雲市立中央保育所・幼稚園（島根県出雲市）

[5歳児]

〈背景～きっかけ〉

昨年の5歳児が取り組んでいた環境活動に強い憧れを抱いて進級した子どもたち。特にグリーンカーテン作りが印象に残っており、「自分たちも5歳になったら、グリーンカーテンを作れる」という期待をもっていた。

汗ばむ陽気の中でグリーンパトロールをした後、日陰の涼しさを実感し、昨年の5歳児が作ったグリーンカーテンのことが話題になる。A児「今年も作りたい！幼稚園が涼しくなるよ！」H児「今年はりんご組さんやみかん組さん（3・4歳児学級）もカーテンにしたらいんじゃない！？」全員「いいね～！やってみよう」と気持ちが一つになる。

〈話し合い〉

どんなカーテンにしたい？ → 花 {コスモス・風船カズラ・朝顔…}
野菜 {ミニトマト・カボチャ・ゴーヤ…}

蔓が伸びる花はどれかな？ → いろいろ植えて調べてみる！

どうやって育てるといいのかな？ → 詳しい人に聞いたり図鑑で調べたりしてみる！

種や苗はどこにあるかな？ → 幼稚園の近くの種苗店に行ってみよう！

〈土作り～種まき〉

自分たちの学級だけでなく、3・4歳児の学級の前もグリーンカーテン（朝顔）にしようと土起こしをし、肥料を撒く。生花店を営む保護者に“グリーン先生”として種蒔きに参加していただき、「朝顔の花を咲かせるために大切なのは、みんなと一緒に病気になるようにご飯をいっぱい食べて元気に育ててあげることだよ」とアドバイスをもらう。プラグポット10ケースに朝顔の種を蒔く。

〈世話をする〉

毎日の観察や世話を通して、発芽や生長について気付いたことを話し合ったり絵で表現したりする。

なかなか芽が出てこないのでも“グリーン先生”に相談し、「今年はよく雨が降るから、水やりは土の様子を見てからあげるといいよ」とアドバイスをもらう。

2週間後、発芽に気付く。「カニの手みたいな葉だね」「ハートにも見える！」「風船カズラの葉とは違ったよ」

〈苗の移植〉

朝顔と野菜の苗をフェンスに沿って植える。

「僕、こっち側に植えるけん、Nちゃん、みかん組の方をお願い！」「オッケイ、わかった！」など、場所や役割を自分たちで決めながら取り組む姿が見られる。

〈グリーンカーテンの完成〉

徐々に仲間意識が高まってきて、協同的な活動の場面が多く見られるようになる。グリーンカーテンの完成をみんなで喜び、夏祭りでは、育てた朝顔や風船カズラの苗をお客さんにプレゼントする。また、朝顔の花で色水や絞り染めをしたり、種取りや種の数調べをしたりして楽しむ。



〈考察〉～思考の芽生え、科学、環境教育の視点より～

- ・昨年度の5歳児の取り組みへの憧れから始まった活動であったが、「グリーンカーテンを園全体に広げたい」という思いが子どもたちの共通の目当てとなり、みんなで考え合い主体的に活動を進めていった。
- ・植物との関わりそのものが自分の思い通りにはならない、試行錯誤しながら考える心を育む環境であり、その過程での子どもたちの発見や気付きの多さには保育者自身も驚きの連続であった。
- ・花や野菜の日々の生長や偶発的な自然の事象への感動体験は、子どもたちの心を揺さぶり、様々な方法で表現できるような援助を工夫することで、観察する力や思考の過程が深まっていくのではないかと考える。
- ・温暖化防止や対策（二酸化炭素、紫外線吸収作用など）、環境問題への効果が期待される植物を生活に取り入れることで、自然や環境、生命を大切にしようとする心を育てていくことが期待できると感じた。

みどころ

昨年の5歳児の姿から自分たちの生活に見通しをもち、意欲的に取り組む様子が伝わってきます。ただ憧れの姿を真似るだけでなく、「自分たちはこんな風になりたい！」「こんなことができるかな！？」と自分たちなりの目当てや課題を見出しています。また、子どもたちにとって身近な環境がより親しみ深く、遊びや生活の一部としての環境になっています。こうして自ら環境に関わる経験が、「自然に親しみ、自然の不思議さや美しさに驚き、感動する心」「人や自然を大切にしようとする心」など「科学する心」の育ちにつながるものが期待できます。